

森岡(生光園)華麗な技披露 板飛び込み

女子板飛び込みで華麗なひねり技を披露する生光学園の森岡JJABバンクちよきんぎょプール(立花善晴撮影)



頂点を目指していた最後のインターハイがなく、なつても自分に挑み続ける姿があった。「どんな

大会でも最善のパフォーマンスをしたい」。ただ一人代替大会に出場した森岡(生光学園)は、引き締まった表情で飛び込み台に立った。7位入賞した2月のワールドカップ(W杯)代

表選考会と同じ構成で臨んだ。やや入水にむらも高難度の前宙返り2回平1回ひねりをしっかり決めるなど、フランクを感じさせない演技だった。

昨夏のインターハイは2年生ながら2位。高校王座へ照準を合わせていた4月初旬、右鼓膜を破るアクシデントで約1カ月半、本格的な練習から遠ざかった。そんな折、新型コロナウイルスの影響でインターハイ中止が決定。「残念だけど仕方がないこと。次に向かって頑張ろう」と気持ちを切り替えた」と話す。

次に出場を予定しているのは9月末に新潟県である日本選手権。大学、社会人の強豪との戦いとなるが「課題の入水をしつかり練習して上位入賞を狙いたい」と意欲を見せる。

国府小5年で競技を始め、中学、高校と第一線で活躍してきた飛び込みの申し子。「最大の目標は4年後のパリ五輪」。信頼する大西コーイチと二人三脚で大きな夢へと歩み続ける。(山口隆弘)